



生物多様性と 自然環境の保全



アサヒグループ生物多様性宣言

2010年3月、アサヒグループは生物多様性保全活動を重点課題の一つに掲げた「環境ビジョン2020」および国内酒類業界では初となる「生物多様性宣言」を策定・公表しました。

▶ アサヒグループ生物多様性宣言

<http://www.asahigroup-holdings.com/csr/environment/biodiversity.html>

「アサヒの森」での環境活動

「アサヒの森」は、グループ会社であるアサヒビール(株)の社有林です。同社が広島県庄原市から三次市にかけて保有・管理する社有林は15ヵ所、面積にして2,165ha(東京ドーム約463個分)、庄原市および三次市の全面積の約1%にもなります。

アサヒ飲料では、アサヒの森環境保全事務所が開催する「アサヒ森の子塾」や「森と水の学習会」へ共同参画し、地元の小学生を対象に、森林環境教育プログラムやろ過実験装置を使った実験を通じて森林の水源涵養機能、環境保全の大切さを伝えています。



水の循環について学ぶ



丸太切り

「三ツ矢サイダー ジュニア環境授業」の実施

未来を担う子どもたちと環境保全に取り組んでいくことを目的に、アサヒ飲料は2009年から小学校4年生を対象に、出張授業「三ツ矢サイダー ジュニア環境授業」を展開しています。開始からの累計参加者数は、2016年で12,472名になりました。

授業は、水の循環、ろ過の仕組み、森の役割、PETボトルの正しい資源回収への出し方などを実体験を交えて学ぶことで、環境問題を意識できる内容です。「三ツ矢サイダー」が現在まで守り続けている「磨かれた水」をテーマに、環境問題を楽しみながら学べるユニークな授業で好評を得ています。



さまざまな形で「水」について学ぶ

環境教室のステップ

- 水の必要性について
- 「三ツ矢サイダー」ができるまで
- 水の循環、森林保全の大切さについて
- PETボトルのリサイクル体験
- スマイルエコツリーの製作
(自然環境を守るために約束を書いたモニュメントづくり)



VOICE



アサヒの森のはじまり

アサヒグループホールディングス(株)
アサヒの森環境保全事務所 所長

松岡 洋一郎

当初ビールびんの王冠の裏地に使用していたコルクの自給対策として山林を購入しましたが、コルクの確保の見通しがついた1960年代以降は、持続可能な森林経営を目指して植林を行いました。近年は計画的な間伐を行いながら森林の持続的な育成を図っており、アサヒグループの環境活動の象徴となっています。

VOICE



理科と社会科を 複合的に学べるプログラム

アサヒ飲料(株)
コーポレートコミュニケーション部 部長

高橋 朋彦

「三ツ矢サイダー ジュニア環境授業」は、小学校で「環境教育」のテーマにあげられている「自然環境を大切にする」(理科)と「飲料水等の資源と自分たちや産業との関わり」(社会科)の領域を組み合わせた授業になっています。参加した児童たちから「これからPETボトルを捨てる時は、ラベルをはがしてキャップを取り、ちゃんとつぶして捨てて、環境を守る」など毎回好評いただいている。

「こうべ森の小学校・森のようちえん」を支援

アサヒ飲料は六甲工場がある兵庫県神戸市で、市が推進する「こうべ森の小学校」を2010年から、「森のようちえん」を2012年からそれぞれ支援しています。「こうべ森の小学校」は、主に小学生以下の子どもを持つ家族を対象とし、緑豊かな六甲山森林で森の手入れや植物観察、クラフト、野外調理などを体験します。「森のようちえん」は未就学児を対象とし、絵本を読んでから森に入り、五感を使って森や自然の楽しさを感じてもらう活動です。

開始から19年目となる2016年度は、全6回の活動を実施し、合計で660名が参加しました。



レクチャーを受ける様子

VOICE



市民・企業・行政の連携が必要です

神戸市建設局 公園部
森林整備事務所 所長
道木 柳太様

家族ぐるみで森に親しみ、自然について学びたい気持ちを育てていく活動を目指しています。次世代への教育という観点で取り組んでおり、直ちに効果が現れるものではありませんが、企業の継続的な支援があってこそこの活動を考えています。今後も市民・企業・行政の連携が継続されるものと期待しています。

自然の恵みの大切さを伝えたい

アサヒ飲料(株)
明石工場 工場長
川村 和弘

「こうべ森の小学校・森のようちえん」は、六甲の豊かな自然の中で、子どもたちが自然の恵みの大切さを感じ、学ぶことができる大変意義のある活動です。またその活動を通して親御様にも改めて自然の恵みの大切さを感じていただき、家族で会話してほしいと思います。そしてその子どもたちが大人になって、また次の世代につながっていく活動になったら良いなと思っています。

富士山麓の自然を守る白糸自然公園植樹祭

富士宮市が主催する白糸自然公園植樹祭は、富士山の眺望を含む良好な自然景観の形成と「水源涵養」と「自然林の復元」を目的に、市民参加型の自然環境保全活動として2014年から実施されています。2016年5月に行われた第3回植樹祭に、アサヒ飲料と関連会社を含めた社員16名が参加し、約0.9haの育樹地に広葉樹の苗木を植えました。

アサヒ飲料では、今後も白糸自然公園植樹祭を含め、富士山麓の自然を守る取り組みを通じて生物多様性の保全に協力していきたいと考えています。

2016年度は同植樹祭のほか、第23回富士山麓ブナ林創造事業、富士山クラブ富士山育樹活動、富士山の草原性保全活動に参加しました。



植樹祭の参加者

VOICE



市民・事業者・行政が一丸となって地球にやさしいまちを目指します

富士宮市 環境部長
佐野 一也様

近年の環境問題は、複雑かつ多様化しており、さまざまな視点から環境への取り組みを検討する必要があります。市民・事業者・行政が一丸となって、第2次富士宮市環境基本計画に定めた、目指すべき環境像である「富士山の恵みを次世代につなぐ 地球にやさしいまち～「空よし」「水よし」「緑よし」ここに住みたい富士宮～」を目指して取り組んでいきたいと考えています。



富士山の豊かな自然の恵みをつなぐ活動を大切に

アサヒ飲料(株) 富士山工場 工場長
高倉 晓



富士宮市の目指す環境像の実現のために、白糸自然公園植樹祭のような環境保全活動は大切であり、また市民の環境文化の醸成にも大変意義のあることだと考えます。これからも富士山の地下水の恩恵を受ける企業として、豊かな自然の恵みを次世代につなぐ活動に、継続的かつ積極的に協力していきます。